



●私見・研究会行事の参加費のこと

3月1日開催予定の色彩教材研究会主催の「ギャラリートーク」の非学会員の参加費について、学会本部の方から、非学会員の参加費徴収のルールを決めたので、守るようにとの指示が来たことで、紛糾していると聞いた。

学会の運営費の不足に対応するためと思うが、このようなことは、総会で決めるべきことであり、せめて、全研究会の意見を聞いて決めるべきであつたらうと思う。

老人の私見として述べさせていただくが、研究会行事には非会員の方々に、無料で試験的に参加していただき、その後、色彩学会入会を願いして、学会員数の増加に持っていくのが、本質であると考えている。

50年以上、色彩教材研究会に関係していて、昔は、いつもイベントの後の飲み会で北畠名誉会員と新規の人に色彩学会入会をソフトにお願いしていたことを思い出す。

現在は、印刷物の他、SNSやWEBを利用して、種々の入会勧誘のツールを作って入会者の拡大を図ることができると思う。

理事会において、これらの充実を計る協議をして、ツールを作成し、学会員拡大を実現して欲しいと思う。 (永田泰弘)

●366日ヨーロッパの伝統色図鑑・こぼれ話2

今回はフランス菓子由来の「ビスキュイ」(Biscuit)に関する余話をご紹介しますと思います。この色名は焼き上がったビスケットの茶色を表します。ビスキュイは、フランス語でビスケットや乾パンのことをいい、元々、船旅や軍隊用の携帯食、保存食としてつくられていたビスキュイの一種に「ビスキュイ・ア・ラ・キュイエール」と呼ばれる焼き菓子があります。

これはメディチ家伝来のフィンガービスケットで、16世紀、アンリ2世に嫁いだカトリーヌ・ド・メディシスと共にフランス入りした菓子職人が作りはじめたといわれています。その「ビスキュイ・ア・ラ・キュイエール」をバラ色に染めたような焼き菓子が、本文でも少し触れている「ビスキュイ・ド・ランス」。シャンパーニュ地方の都市ランスで誕生した、シャンパンに浸していただくビスキュイです。1690年頃、「パンを焼いたあとの余熱を利用、保存がきく、シャンパンに合う」、この3つを満たすお菓子というアイデアから生まれたそうです。

1825年にルイ15世の孫のシャルル10世から王室御用達の許可を得ている、王家にも愛されたランスの銘菓です。 (塚本由紀江)

「理想の色に巡り会える日本の伝統色」

監修協力を終えて -3

理想の色に巡り会えるシリーズ3作目『白の図鑑』に続き、今回の4作目『日本の伝統色』の監修協力として参加しております。

意識しましたのは、読者に興味を持たれる本にしたいという思いで、作業に取り組みました。色の表現、カラーチップの色は勿論のこと、読者の目線に立ち、伝わる写真、内容がより分かり易い文、字の読み易さなど繰り返し議論を重ねました。多くの写真や文献で確認を取りながら、また時には提案や変更、調整をお願いし、最後の最後まで編集者、出版社にもご尽力いただきました。

写真については、多くの似たような画像は膨大にありますが、頁を開いた時に一瞬でも美しいなど記憶に留まる、よりバランスの良い構図の写真の変更、提案をすることもありました。そして、キャプション、本文では、言葉に少し装飾、より内容の幅が広がる言葉を添えるなど、原稿の主旨を変えない範囲で調整させていただきました。

同出版社の『366日 日本の美しい色』に掲載されていない、耳慣れない伝統色も含まれて、由来や歴史的背景などで世界が広がる美しく楽しい伝統色の本となっています。

ご一読頂けましたら幸いです。 (瀧川優子)